



「多久から発信！SDGs」

「学校応援団」

新型コロナウイルス感染症が5類となりました。学校では、マスクを外して友達と話す光景がたくさん見られます。そして、改めて子どもたちの豊かな表情はとてすてきな感覚を感じさせられます。また、こまめな手洗いや定期的な換気を行う姿も見られ、コロナ禍で学んだことが定着しています。

さて、多久市内義務教育学校では平成28年度からコミュニケーション・スクールを導入しており、保護者のみなさんや地域の方々からの支援を受けながら学校運営を進めています。各学校には「学校応援団」が組織されていて、子供たちの登下校の見守りや学習活動の支援、多久ならではの体験活動を実施するときのご協力をいただいています。「学校応援団」の活動は、子どもたちの成長に欠かせない存在となっています。

しかし、令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の影響で、さまざまな活動が中止、あるいは縮小せざるをえない状況となりました。「学校応援団」の活動もその影響を受けた一つです。今後は学校教育を豊かなものにするために、この「学校応援団」の取り組みを推進していけたら、とてもありがたいことです。

「学校応援団」は、各学校や公民館等での募集を行っています。ご興味があれば是非学校にお問い合わせください。子どもたちが待っています。



連載

野の仏ギャラリー ④

六体地藏菩薩と観世音菩薩

南多久町大字下多久



道の側に六体の地藏菩薩坐像、その中央に観世音菩薩坐像が安置されています。地藏菩薩一体の台に「安永七年智雲」「観世音菩薩の台に「寛政十二年建立」と刻まれています。従って、地藏菩薩の安置後に観世音菩薩が安置されています。智雲は妙覚寺十二世法印宏辨の字です。写真右手に伸びる尾根には墓地があり、その道筋が選ばれ設置されたと考えられます。地藏菩薩は向かって左から経箱、撥・太鼓、繻索(数珠)、鏡・鉢、持物無合掌、錫杖・宝珠を持っています。また、台正面には天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道と刻まれています。地藏菩薩は、弥勒仏が出現するまでの間、仏法を説き、六道の衆生を救済するとされます。

※安永七年は西暦一七七八年、寛政十二年は西暦一八〇〇年です

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆麦秋の季待つ青田を渡る風
優しき亡母の面影偲ぶ
浦野 嘉恵

◆純白の野苺の花ひっそりと
山の細道 野性見せおりに
川浪 信子

◆ふたりして一人前だと夫の言う
老々介護の一日はじまる
梶原恵美子

◆感動で前が見えない その台詞
言えて死ねたら本望なんだ
野崎 隆幸

◆「アルルのはね橋」絶筆「麦畑」と追いつ旅
はるけくなりてわが生もまた
尾形 節子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

◆句心に時に指折る山つつじ
中嶋 清子

◆湯浴みする湯のやはらかき春の宵
富樫 明美

◆合掌を解きし墓前に夕霞
おおやはな

◆連休をひとり畑に五月晴
本村 則子

◆生も死も選べぬ定め山桜
大石ひろ女

◆さらさらと好奇に満ちた児の瞳
高塚チカ子

◆後でするとはもう言えぬ
西山 残月

◆深々と謝罪の腰は二つ折り
大谷 和

◆内緒です彼と彼女の深い仲
松下 修

◆叱りながら泣いてる母の目が優し
田代まつこ

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》